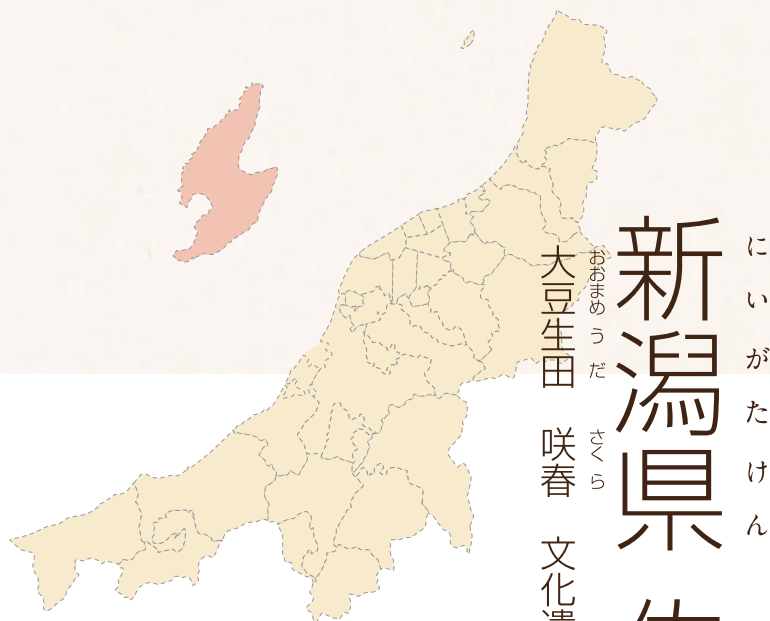


このコーナーは、地元を離れ

奈良で生活している学生さんたちに、奈良に来てみての感想や、ふるさとの自慢話を紹介してもらおうというものです。

今回は、1回生の大豆生田 咲春さんに答えていただきました。



【方言】

- 【ちゃらくらげえ】…ふざけた、いいかげんな
- 【ととこそ】…おっちょこちょい
- 【しなしな】…そろそろ、ゆっくり
- 【しゃつける】…叩く、殴る
- 【だちかん】…ダメ
- 【よんどこねえ】…申し訳ない、恥ずかしい
- 【佐渡に遊びにこいっちゃ!】…佐渡に遊びに来てね!

インタビュー内容

- ① 奈良のすきなところ
- ② 奈良に来て驚いたこと（地元にはないもの・こと）
- ③ ふるさと紹介
- ④ ふるさとの自慢できるところ
- ⑤ ふるさとの観光地、おすすめスポット
- ⑥ ふるさとの特産品・名物料理

① 奈良は夜が魅力的ですね。寝苦しい夜にふらっと散歩してみると観光地の新たな一面を見たような感じがしてワクワクします。例えば、東大寺と言うと日中の「人と鹿が密集している場所」というイメージが強いですが、夜になると昼間の喧騒が嘘のように深閑とした場所に様変わりします。荘厳な佇まいは昼も夜も変わりませんが、夜は昼よりもどこか異質な、異世界に迷い込んだような感覚を味わうことができますね。

② 今となっては見慣れてしまいましたが、鹿と人が多いことに驚きました。その辺を歩くだけで様々な国籍の方を見かけますし、お腹をすかせた鹿が観光客に絡んでいる光景をよく見かけます。奈良ならではの光景ですね。

③ 私のふるすとは新潟県佐渡市です。佐渡、と聞くと皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。知名度が低い場所かな、とは思いますが、トキや佐渡金山などが有名な日本海に浮かぶ小さな島です。流刑の地であったり、金銀採掘の場として幕府直轄領であったりした過去もあり、日本史の教科書のみっこにちょろっと載っていたりします。島だけあって海洋性の気候で四季の変化に富んでいますが、冬の積雪は佐渡沖を流れる暖流の影響もあり新潟本土よりも少なくなっています。ただ、冬の日本海は荒れに荒れるため、島に閉じ込められることもしばしば。お越しの際は船酔いと予定に気をつけることをオススメします。

④ 自然の豊かさは誇れる部分です。植生について言えば、寒いところと暖かいところの植物境界線が島の中央を通過しているため約1700種の植物が自生しています。さらには本州では標高2000メートル級の場所で見られない山野草の群生が1000メートル以下の標高でみられるそうです。多様性を感じますね。また、地殻変動によって形作られた美しい景観も自然の恵みと言えます。海岸線をドライブしていると、穏やかな砂浜もあれば荒々しく切り立った断崖もあり、海を眺めているだけでも楽しめます。大野亀という標高167メートルの一枚岩が海に突き出した場所は佐渡の地形と美しい植物を両方味わえる場所です。初夏には50万株100万本ものトビシマカンゾウが咲き誇り、黄色い花が一面に広がる圧巻の光景が見られます。

⑤ 相川金銀山や宿根木など、オススメしたい場所はたくさんありますが、今回は矢島・経島をみなさんにご紹介しようと思います。小木地区の波穏やかな入り江に浮かぶ二つの島、矢島と経島。そして二つの島を繋ぐ赤い太鼓橋と碧い海の鮮やかな景色を楽しめる場所です。さらに、この矢島・経島では遊歩道を歩く他に、たらい舟に乗ることができます。ご存知でしょうか、たらい舟。その名の通り、たらいの形をした一本の櫂で操舵できる小さい舟です。そんな独特な舟に乗って景色を楽しむことができます。ゆらゆらと波に揺られながら景色を眺めるのも一興ではないでしょうか。

⑥ 四方を海に囲まれているだけあって海産物は新鮮で絶品です。海藻の加工品であるいごねり、真野湾や加茂湖で養殖している牡蠣、佐渡産の素材にこだわったブリカツ丼など、海の恩恵を感じられるグルメがたくさんあります。また、特異な気候であることから様々な果樹栽培が盛んです。おけさ柿は佐渡の名産品の一つで、そのままでも美味しいですが、様々な料理に加工されても食べられています。美味しいお土産としては沢根だんごがオススメです。薄い皮につつまれ、こしあんがぎっしり詰まった一口サイズのお団子です。少し水をつけて食べるとより美味しく食べることができます。



矢島・経島



大野亀のカンゾウ



ブリカツ丼